

## 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

国と地方の役割分担を明確化しつつ、社会資本整備を重点的、効果的、効率的に推進していくために、国と地方公共団体との円滑な意思疎通、共通認識の醸成を図りつつ、各地方支分部局による社会資本整備に係る重点目標や事業等に関する検討・整理をもとに、地方ブロックの社会資本の重点整備の方針を社会資本整備重点計画の閣議決定後、取りまとめることとしております。

「地方ブロックの現状、課題、今後の方向」は、地方ブロックの社会資本の重点整備の方針を作成するプロセスの最初の段階(たたき台)として、公表するものであり、また、都道府県の意見聴取や国民の皆様へのパブリックコメントの際に、社会資本整備重点計画(素案)についてより理解を深めて頂くことも考え、社会資本整備重点計画(素案)の参考資料として以下の地方ブロックごとに作成し、添付するものです。

- ・ 北海道ブロック
- ・ 東北ブロック
- ・ 関東ブロック
- ・ 北陸ブロック
- ・ 中部ブロック
- ・ 近畿ブロック
- ・ 中国ブロック
- ・ 四国ブロック
- ・ 九州ブロック
- ・ 沖縄ブロック

# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【北海道ブロック】

### 1. 北海道ブロックの現状と課題

北海道は、我が国の食料基地として安全で安心な食料の安定的な供給が求められている。また、北海道は、他地域に比べ産業集積が少なく、かつ産業構造の転換が遅れていることから、新たな産業の育成が求められている。国際化の進展に伴い競争が激しくなる中で、食料の安定供給や産業の競争力を強化するためには、新たな産業の萌芽等を支援するとともに、生産性の向上や人流・物流の円滑化・効率化を進める必要がある。

北方型の独特で豊かな自然環境を残しており、また、多様な野生生物が生育・生息している。これらを次世代に引き継ぐため、良好な自然環境の保全・再生・創出を進める必要がある。また、道民一人当たりの温室効果ガス排出量が多いことなどから、地球環境保全に貢献する循環型社会を構築する必要がある。

雄大で美しい自然風景や農村景観、雪、流水、温泉等の資源に恵まれた、日本有数の観光地である。ゆとりある生活、余暇の充実に対する国民のニーズの高まりや変化、国内外からの観光客の増加に対応し、観光客の利便性の向上を図りつつ、地域としての魅力を一層高める必要がある。

広大な地域に人口や都市が分散しているにもかかわらず、基幹的な交通網の整備が遅れている。また、積雪寒冷な気候、全国を上回る急速な高齢化の進行、中心市街地の空洞化、水害・火山災害・地震災害等の自然災害が頻発するなどの課題を抱える地域である。このため、すべての人が年間を通して安心して快適に暮らすための地域づくりを推進する必要がある。

### 2. 北海道ブロックのめざすべき将来の姿（案）

北海道は、豊富な資源や広大な国土等の特性を活かし、食料基地としての役割の強化や成長期待産業の育成、北の国際交流圏の形成を通じた「国の内外に開かれ自立する地域」、環境の保全や循環型社会の形成を通じた「恵まれた環境や資源を誇りを持って次世代に引き継ぐ地域」、観光・保養など国民の多様な自己実現や交流の場の形成、安全でゆとりある生活の場の実現を通じた「多様な生活や文化を享受できる安全でゆとりある地域」を目指す。

# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【東北ブロック】

### 1. 東北ブロックの現状と課題

東北地方は、広大な国土と豊かな自然環境や文化資源に恵まれ、大きなポテンシャル（潜在力）を有している。しかし、脊梁山脈や峠、豪雪等が地域間交流や人々の暮らしに大きな影響を与えているため、広域的な連携を強化し、個性を活かした活力ある地域づくりを推進していく必要がある。

経済活動における地域間競争の激化が進む中で、東北地方は、域外の港湾・空港の利用依存度が高い等、グローバル化への対応が遅れているため、国内外との競争力を高めていく必要がある。

東北地方は、宮城県沖地震など大規模地震、津波、水害、火山等の災害や豪雪の被害を受けやすく、また、全国平均を上回る高齢化が進展しており、これらに適切に対応していく必要がある。

東北地方の都市では、郊外部で商業開発等が進む一方、中心部で賑わいの喪失など空洞化が進んでいるため、活力と個性ある都市づくりを推進していく必要がある。

東北地方は、世界自然遺産など美しく豊かな自然環境、素朴な風土、個性的な文化が形成されており、これらを将来に引き継いでいく必要がある。

### 2. 東北ブロックのめざすべき将来の姿（案）

東北に暮らす人々が誇りと生き甲斐を感じながら生活を営む地域の実現に向け、4つの基本方針により、広大な国土と豊かな自然環境や歴史・文化を活かし、世界に開かれた活力あふれる地域『強く美しい東北』を目指す。

産業の自立した発展を支えるため、物流の効率化、人と情報の交流・連携を支える社会基盤の整備を進め、「強い東北の創造」を目指す。

あらゆる災害や豪雪に対応した施設整備とソフト対策の推進、ユニバーサルデザインの導入などにより、誰もが快適で暮らしやすい「安全で安心できる地域づくり」を目指す。

自然や環境との共生、職住近接、土地利用の高度化などにより、効率的で持続可能な都市を形成するとともに、歴史や文化を活かした個性を持つ「魅力ある都市づくり」を目指す。

循環型社会を構築するとともに、美しい山河、豊かな自然、独特な文化を適切に保全し、観光等に有効活用し、周辺環境と調和のとれた「美しい東北の実現」を目指す。

## 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

### 【関東ブロック】

#### 1. 関東ブロックの現状と課題

関東地方は、我が国の人口の35%が居住し、政治・経済・文化の中心である東京圏を擁し、近年は情報サービス業など成長産業の集積も突出して進んでいるが、首都圏における拠点空港の容量限界、都市部における交通渋滞など経済・産業ポテンシャルの低下が懸念されるほか、国際競争力の観点からは、国際交流拠点としての相対的な地位の低下も懸念される。

国や企業の中核機能が集中しているため、ひとたび大規模災害に襲われた場合や東京湾及び周辺海域で大規模海難が発生した場合には、国内全域のみならず海外までその影響が懸念されること、また、東京においては地震時に大きな被害が想定される密集市街地が存在することから、災害への対応を強化していく必要がある。

都市部を中心に大気汚染や大量の廃棄物の発生、水質汚濁の進行などの問題が発生しており、交通渋滞緩和、水質汚濁負荷量の削減を含む総合的な環境対策、リサイクルの促進や省資源化、総合的な静脈物流システムの形成など、循環型社会の構築や大都市に残された貴重な自然環境の保全、緑の創出、水循環系の再生、生態系の保全など質の高い都市生活の実現を図ることが必要である。

人口集積が多く、今後は全国に比べて、高齢者数の増加がもっとも顕著となることから、高齢者がいきいきと暮らせるために、さまざまな分野でユニバーサルデザインの導入を進めていく必要がある。

地域の個性ある自然、歴史、伝統、文化など豊富な観光資源の有効活用により活力ある地域づくりを進める必要がある。

我が国のこれからの成長分野をになうゲノム科学の国際拠点の形成に向け、先端研究の充実を進めるとともに、豊かな心を養う自然学習・生涯学習・社会活動の場の提供や自然環境の再生・創出が必要である。

#### 2. 関東ブロックのめざすべき将来の姿（案）

関東地方は、我が国の政治・経済の中核機能を擁するだけでなく、多様な自然環境や地域固有の歴史・文化を有する地域でもあり、国際的な会議やイベントなども多く開催される地域でもあることから、国内外の交流の拡大を図り、これらのポテンシャルを最大限に活かして、今後とも我が国及び世界の経済を将来にわたってリードしつつ、魅力と活力にあふれる経済社会の形成を目指すとともに、安全に安心して暮らせる地域、個性ある美しい環境といきいきとした暮らしの実現を目指す。

# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【北陸ブロック】

### 1. 北陸ブロックの現状と課題

古くは「越の国」と総称された新潟、富山、石川、福井及び長野等その周辺地域からなる北陸地方は、美しく豊かな自然に囲まれ、降雪量が多く水資源に恵まれているなど、豊富な国土資源を有している。また、特色ある産業・文化の蓄積やわが国で最も優れた居住環境を有し、豊かな実りを供給する食糧基地でもある。これらの財産を守り、育てることで、人と自然が調和した文化の香り高い地域づくりを進めることが求められている。

地域間の連携や国際交流を基軸に地域づくりを進めようという潮流の中、北陸地方は、日本海国土軸の中央に位置しており、県庁所在都市や10万人以上の都市が近接・連担し、三大都市圏のそれぞれに近く、また北東アジア諸国と日本海をはさんで対面する位置にあるなどの地理的優位性を有することから、これを活かして、「環日本海国際交流」並びに「日本海国土軸」の中核圏域として発展が期待されている一方で、地形や自然環境等の阻害要因があるため、これを克服し、より一層の基盤整備・機能強化が求められている。

北陸地方は世界有数の豪雪地帯であり、日本アルプスに代表される急峻な地形、フォッサマグナによる脆弱な地質、地震、火山、急流河川、冬季の厳しい季節風による波浪等の自然災害要因が多い。また、山地が多くを占めるため限られた平坦地に人口・資産が集中する一方で、災害発生危険度の高い山間部や細く狭い沿岸地域にも多くの人々が居住している。更に、北陸地方では特に高齢化が進んでおり、これらに対応した災害に強い安全・安心な地域づくりが求められている。

### 2. 北陸ブロックのめざすべき将来の姿（案）

北陸地方は、豊かな自然や独自の産業・文化、優れた居住環境等多くの財産や地理的優位性等、多くの特性を有しており、これらを最大限に活かして、豊かな居住環境と都市的サービスを併せて享受できる多自然居住地域の創造を進めるとともに、内外との多種多様な連携・交流を一層進め、環日本海交流並びに日本海国土軸の中核圏域として他地域を先導する地域を目指す。また、これらを実現する基本条件として、多くの自然災害要因を克服し、安全・安心の確保を進める。

# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【中部ブロック】

### 1. 中部ブロックの現状と課題

中部地方は、「モノづくり」の拠点として、我が国の経済活力の源泉となってきた。今後とも産業の国際競争力の強化を図るためには、物流効率化によるコスト低減、スピードアップなどにより、「モノづくり中部」の基盤を固めていく必要がある。「日本のまんなか」であり、21世紀の交流を支える交通ネットワークの拠点地域として、国際交流基盤の整備と国土の東西・南北軸および環状軸の機能強化を図るとともに、代替性を高めることが重要である。

日本を代表する美しい自然や歴史的資産等を活かし、2005年の日本国際博覧会「愛・地球博」の開催や、中部国際空港の開港等を契機に、外国人観光客誘致を含む国内外交流の活性化を強力に推進する必要がある。

豊かな生活と産業発展の実現を支えるためには、東海豪雨のような水害や近年発生が危惧されている東海・東南海・南海地震等、さまざまな種類の災害に対応するとともに水資源の安定的な確保を図り、安全・安心な社会基盤を確立していく必要がある。

### 2. 中部ブロックのめざすべき将来の姿（案）

中部地方の持続的な発展のためには、中部が「日本のまんなかである」という地理的特性、「拠点都市が分散している」という地域構造及び「優れた産業が集積している」という産業構造等の地域の有する特性を踏まえ、「日本のまんなかである地理的優位性を活かし、暮らし・産業が調和した、世界に誇れる中部の創造」を目指す。

# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【近畿ブロック】

### 1. 近畿ブロックの現状と課題

近畿地方は、2,100万人を超える人口やカナダ一國に匹敵する経済集積を擁する一方で、全国水準を上回る高い失業率に象徴される著しい経済活力の低下に見舞われている。このため、学術研究・産学連携・民の創意など豊かな創造性の気風を活かし、ライフサイエンスや次世代ロボットをはじめ国際競争力のある産業再生を進めるとともに、中心市街地の活性化、国際物流拠点や広域交通ネットワークの整備などを通じ地方都市を含めた都市の再生と地域連携による経済活力の回復を進める必要がある。

わが国随一の歴史的文化資産の集積やアジアを中心に我が国の国際交流をリードしてきた伝統をより一層活用するため、魅力ある街づくりと観光振興などにより国内・海外との交流拡大を図り、人々が集い合う地域づくりを進める必要がある。

低平地に人口・資産が高密度に集積しているなど災害に対して脆弱な地域であり、東南海・南海地震等の危険性を踏まえ、阪神・淡路大震災の教訓を活かし、府県間を越えた広域防災への取組みを推進するとともに、風水害・雪害などさまざまな災害に強い街づくり、地域づくりなど防災対策を強化する必要がある。

COP3や世界水フォーラム等の国際会議開催の実績を活かし、環境分野で世界をリードする地域を目指すとともに、都市や生活レベルでの環境意識の高まりを踏まえ、身近な自然と共生した美しい地域づくりを進める必要がある。

### 2. 近畿ブロックのめざすべき将来の姿（案）

長らく日本の政治・経済・文化の中核圏域として蓄積してきた歴史、文化、伝統を活かしつつ、それぞれが特有の個性を持つ地域で構成されている近畿地方を、「近畿はひとつ」に結集して総合力を発揮し、都市の再生、身近な自然との共生、国際交流の伝統を活かした多文化との共生を図りながら、文化の香り高く、にぎわい、活力にあふれる地域として再生することを目指す。

# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【中国ブロック】

### 1. 中国ブロックの現状と課題

中国地方は、山地が多く可住地面積が少ないため、氾濫域に多くの人口資産が集中し、山裾部まで宅地化が進められるなど水害等の自然災害を受けやすく、また、全国に先駆けて高齢化が進行している状況を踏まえ、誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりを進める必要がある。

海や山の豊かな自然環境や古くからの歴史・文化を活かして、個性豊かに暮らせる地域づくりを進める必要がある。

全国的に2次産業が厳しい国際競争にさらされている状況の中、中国地方は特に製造業の占めるウェイトが高いため、物流の円滑化等による産業競争力の強化を支援する必要がある。

山陰地方に代表される交通基盤をはじめとする社会資本の低い整備状況、国際間競争の激化等の状況を踏まえ、地域間の交流・連携の活性化や、国際交流拠点の機能強化を進める必要がある。

### 2. 中国ブロックのめざすべき将来の姿(案)

中国地方には、山陰地方の美しい海岸や砂丘及び瀬戸内の島々等豊かな自然に恵まれ、出雲や吉備地方に見られる古くからの歴史・文化や各地に古い町並みが存在する。そして山陽側の沿岸部を中心に発達した素材型工業や加工組立型工業に蓄積された技術や人材等が豊富である。

これらのポテンシャル(潜在力)を最大限に活かし、地域住民やNPO、行政機関などの多様な主体の参加と連携により、自立的な生活圏の形成を図り、ゆとりある居住環境・豊かな自然と都市的なサービスをあわせて享受できる地域を目指す。



# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【四国ブロック】

### 1. 四国ブロックの現状と課題

本四3架橋やXハイウェイの完成等により四国内外の交流は拡大したものの、一方で他地域等との競争が激化しており、その効果を最大限に発揮させつつ、四国の英知を結集し広域的な交流や連携を図るなど、四国の魅力ある独自性を発揮する取り組みを進め“自立する四国”を目指す必要がある。

四国地方は台風常襲地帯であり、急峻な地形と脆弱な地質のため常に水害や土砂災害の危険にさらされる一方で、毎年渇水被害に見舞われている。加えて、今後30年以内に40%程度の確率でM8規模の南海地震が発生すると予測されている。さらに、全国より約10年早いペースで高齢化が進んでおり、誰もが「安全で安心、いきいきと暮らせる地域づくり」を進める必要がある。

四方を海に開かれた地勢を活かし、他地域や世界まで交流・連携する社会基盤を整備し、空洞化が進む都市部の活性化や中山間地域・離島との地域内連携を進め、四国四県の一体的な「活力に満ちた地域づくり」を進める必要がある。

多島美に優れた瀬戸内海や四万十川の清流等の自然、四国霊場八十八ヶ所に代表される癒しの文化や歴史など、魅力溢れる四国のよさを四国内外の人が一層享受できるよう、環境との共生を図りつつ「独自の魅力を創造する地域づくり」を進める必要がある。

瀬戸内海沿岸を中心として立地する基礎素材型産業の多くは、時代の趨勢をつかみ既存技術の集積や高規格・高機能な生産技術を活かした展開を進めており、ITの活用や物流効率化により、地域産業の高度化・体力強化への支援を行う必要がある。

### 2. 四国ブロックのめざすべき将来の姿（案）

四国が地域間競争の時代の中、個性・魅力ある地域づくりを進めるために、四国に住む人自身が四国独自の競争力ある強みを再発見、創出し、積極的に活用（魅力ある四国）、四国四県が個性を活かし、一体となった取り組み（個性輝き・まとまりのある四国）、四国の魅力・特色を活かして人材が集まるような地域づくり（ヒトの集まる四国）を進め、四国に住む人が自由に他の地域と交流・連携しながら“自立する四国”を目指す。

# 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

## 【九州ブロック】

### 1. 九州ブロックの現状と課題

九州地方は、わが国でも災害の多い地域であり、自然災害への対応が必要である。また、豊かな自然環境を良好な状態で次世代に継承していくことが求められる。ある程度の都市が適度に分散する地域構造、豊かな自然、地域の歴史・文化などのポテンシャルを活用して、都市と自然の機能を享受できる個性ある地域づくりが求められる。

少子高齢化と過疎化が同時進行するなかで、地域社会を維持するため、離島を含め広域的な連携・交流が必要である。

低迷する地域産業の振興に向け、地理的・歴史的に繋がりが深いアジア諸国との連携や観光交流拡大を図るとともに、多面的な交流を積極的に進め、東アジアと共に九州の新たな発展を目指す視点が重要である。

### 2. 九州ブロックのめざすべき将来の姿（案）

九州の一体的な発展に向けて、「安全で安心できる・ゆとりある暮らし」、「環境と共生した循環型社会」、「豊かな個性が輝く地域」、「自立・一体的な活力ある地域」、「国際交流を先導する地域」の実現を目指す。

これにより、「どこに住んでいても豊かな自然と都市の利便性を享受できるような暮らし」と「東アジアとともに発展し活力と創造性あふれる産業経済」を実現し、さらには九州が一つの広域国際交流圏として東アジアにおける国際化を先導する地域として我が国の国土の発展にも寄与することを目指す。

## 地方ブロックの現状、課題、今後の方向

### 【沖縄ブロック】

#### 1. 沖縄ブロックの現状と課題

復帰後3次にわたる沖縄振興開発計画に基づき、主に本土との格差是正を目指してきたが、観光・リゾート産業を除く産業面での伸び悩みが見られ、自立かつ持続的発展を図るためには基盤となる各種社会資本を整備する必要がある。

台風や集中豪雨、地震、津波などによる自然災害などから住民の生命と財産を守り、安全で快適な住みよい生活環境を確保する必要がある。

亜熱帯・海洋性気候の下、年間を通して温暖で、貴重な動植物が生息・生育する豊かな自然環境を生かし、自然と共生する社会を構築する必要がある。

「島嶼性」は、非効率な側面がある一方で、特有の風土や文化をもたらしており、これらを活かした地域づくりを進める必要がある。

#### 2. 沖縄ブロックのめざすべき将来の姿（案）

沖縄の自立かつ持続的発展を図るためには、沖縄が「アジア・太平洋諸国に近接している」という地理的特性、「世界に誇れる美しい自然・景観を有する」という自然的特性、「各地域が独自の個性的な風土や文化を有する」という地域的特性を踏まえ、「平和で安らぎと活力ある沖縄県を実現する」ことを目指す。